

教職志望学生を対象とした生徒指導と 教育相談に関するアンケート

○田中 中みこ (中村学園大学)

久永 彩香 (University at Albany, State University of New York)

キーワード：生徒指導，教育相談，教職志望学生

問題と目的

現在，学校現場ではいじめや不登校，非行などの問題行動，メンタルヘルスの問題など様々な教育課題が山積している。これらの教育課題を解決していくためには，教師や保護者が諸問題に対して多面的・多角的に取り組み，児童生徒を理解していくことが必要とされている。生徒指導と教育相談は，車の両輪に喩えられるように，「生徒指導の中核」として，生徒指導と教育相談の関係を連続性のあるもの（文部科学省）として捉えられており，学校現場では，生徒指導と教育相談に関する専門性と実践力が求められている。しかしながら，これから教職を目指す学生は，関連科目は履修しているものの，生徒指導や教育相談に関するトレーニング等の教育シムテムは構築されておらず，現場で戸惑う様子が多くみられている。田中（2019）は，教育実習生として児童生徒同士のけんかやトラブル，実習生を困らせる言動，発達障害を持つ子供へ規範意識の指導法など「子供を叱る」ことの難しさを痛感している学生の回答が多く，その「対処法」を学びたい意識が高いことを明らかにしている。

そこで，教育実習終了後の学生を対象とした，

(1) Student Guidance Questionnaire (SGQ)：生徒指導や教育相談について，学生時代の自分自身の経験及び教育実習生として指導した経験について，(2) Student Problem Behaviors (SPB)：教育実習生として，児童の問題行動に関する対応の難しさについて，(3) Teacher Self Efficacy Scale (TSES-J)：教員（教育実習生）としての学級経営力について，アンケート調査を行った。本研究では，アンケート調査の上記 3 項目を視点とした，学校現場における生徒指導と教育相談の実態把握及び教育実習生として児童の問題行動の対応力や学級経営力について検討することを目的とした。

方 法

調査対象者及び時期

教育学部に所属し，教職課程を履修する小学校教諭免許状取得希望学生 3 年生を対象とした，小学校教育実習終了後（小学校教育実習 4 週間経験）の 12 月に調査を行った。調査回答者は 133 名（回答率 88.6%（133/150 人））であった。

調査内容

(1) Student Guidance Questionnaire (SGQ) は

小学校教育実習後に生徒指導と教育相談に関する項目設定した質問紙を 4 件法及び記述にて実施した。記述では「生徒指導・教育相談の具体的なエピソード」の回答を求めた。

(2) Student Problem Behaviors (SPB) は児童の問題行動の対応の難しさについて「授業中にうるさい」，「不登校」，「授業をさぼる」など 21 項目設定した質問紙を 5 件法にて実施した。

(3) Teacher Self Efficacy Scale (TSES-J) は学級を経営していく力について，「教室のルールなどの設定」，「授業中に騒がしくなった時，対応できる」など 8 項目設定した質問紙を 5 件法にて実施した。

結果と考察

(1) Student Guidance Questionnaire (SGQ)：学生時代に受けた生徒指導については，はい（70%）の回答があり，形式は個人，グループ，教室・学校全体の順に多かった。時期については，中学校（36%），小学校（27%）の順に回答が多く，学年別では小学校 6 年生，中学校 3 年生の学校最終学年に受けていたことが多かった。内容は，学校生活（42%），風紀・服装（27%）の順に回答が多かった。特に自由記述では，学校生活の態度や服装・風紀（髪，スカートの長さなど）に対する指導を受けた経験の記述がみられた。学生時代に受けた教育相談については，はい（31%）の回答があり，時期は中学校（78%），高校（66%）の順に多かった。内容は，勉強の仕方が最多であった。教育実習生として指導した経験については，生徒指導は 35%，教育相談は 5% の学生が実施したと回答した。(2) Student Problem Behaviors (SPB)：児童の問題行動は，不登校，いじめ，自傷行為，暴力行為において，「対応にかなり困る」と回答した学生が多い傾向がみられた。(3) Teacher Self Efficacy Scale (TSES-J)：学級経営力は，ほぼ全ての項目において平均値（普通にできる～それなりに自信がある）以上の回答が多い傾向がみられた。

以上のことから，今後はアンケート結果を元に教育実習生の生徒指導や教育相談に関するトレーニングやカリキュラム上のシステムを概観し，よりよい教育シムテムの構築を目指していきたい。